



群馬大学国際教育・研究センター ニュースレター

Newsletter from International Education and Research Center Gunma University

2011 Vol.11

はじめに

群馬大学国際教育・研究センター
センター長 大澤研二



目次

1. はじめに
2. 留学生教育部門から
(1) 荒牧・昭和クラスに
おける日本語クラス
(2) テレビ会議システム
を使ったビジネス日本
語講義
3. 国際交流部門から
4. 留学生相談室から
(1) 「留学生サポート
デスク」
(2) 公開講座「異文化間
コミュニケーション・
トレーニング」
5. 留学生研修旅行
(鎌倉方面) 報告
6. 群馬大学留学生の声
ナルバエス・パブロ (コ
ロンビア)

【付録】

教員・職員紹介

群馬大学国際教育・研究センターは、大学のグローバル化の進展に伴い、従来から実施してきた留学生に対する日本語教育に加え、国際交流活動にも関わることを目的とし、平成 20 年 12 月に留学生センターから改称した組織です。本センターは、留学生教育部門と国際交流部門の二つの部門からなり、所属教員は何れかの部門に属することとなっていますが、役割としてはどちらか一方ではなく、互いに助け合う形で運営に携わっています。

当初、国立大学では留学生の日本語教育を主な役割として、留学生センターを設置してきましたが、近年は、その多くが国際交流を役割の一部とし、名称も国際センター、国際交流センター等に変わり、留学生の受け入れと教育だけでなく、在学生の留学送り出しの役割も担うようになってきたと聞いています。特に、内向き指向が強まるばかりの日本人学生にとって、海外で学習機会を得ることは重要と思われ、その為に大学が果たす役割も大きくなっています。本学に留学する外国人の数が、在籍者数で 300 名近くなるのに対し、短期を含め海外の協定校などに留学する日本人学生が数十名に留まっているのは、こんな社会情勢の表れかもしれません。

本学に在籍する留学生のうち、約三分の二は工学部、大学院工学研究科に所属し、センターがある前橋市荒牧キャンパスとは約 30 km 離れた桐生市桐生キャンパスに通っています。センターに所属する教員のうちの一部は本センター桐生分室に常駐し、多くの外国人学生に対して日本語教育を行っています。また、留学生の相談業務に携わる教員は、荒牧、桐生キャンパスと共に、医学部、大学院医学系研究科、大学院保健学研究科がおかれている前橋市昭和キャンパスにも出向き、留学生の生活、学習に関する相談を受けています。このように、群馬大学は複数のキャンパスが散在する中で、留学生の教育に関しても効率よく行うことが求められています。

本センターの事務は、研究推進部国際交流課が担当し、国際企画係と留学生交流係が国際交流と留学生教育に関する全般にわたり、センター教員との協力のもと行っています。一方、桐生分室には事務員が常駐し、留学生が必要とする手続などの事務処理を行っています。留学生センターから国際教育・研究センターに移行するにあたり、これらの整備も徐々に進められ、留学生が学習・研究に集中できるような環境ができつつあります。最近では、留学してきた外国人を教育するだけでなく、受け入れの機会を高めるために短期留学プログラムを企画するなど、センター教員の役割は拡大しつつあります。今後も、更に幅広い分野に企画を進めるだけでなく、他部局の教員との協力体制を強固なものとすることで、留学生に対する日本語教育だけでなく、留学生教育全般にわたって関わっていきたいと考えており、その為に海外の協定校だけでなく、国内の大学とも協力関係が結べればと願っています。

2. 留学生教育部門から

1) 荒牧・昭和キャンパスにおける日本語クラス

群馬大学に留学生センターが設置されてから 12 年ほど経ちました（私が群馬大学に着任してからも 12 年が経ちました）。

当初は、荒牧キャンパスでの教養教育としての日本語クラス、国費留学生・教員研修生のための予備教育コース（ゼロスターター対象の半期の集中コース）、そして、荒牧・桐生・昭和の各キャンパスにおける大学院生・研究生の日本語の習得補助を目的とした補講コースが開講されていました。国費留学生のための予備教育コースは、当初は多くの留学生を受け入れており、半期のコースを年に 2 回実施していましたが、ここ数年は後期のみを開講となり、来年度はゼロスタートの国費留学生がゼロであるため不開講となっています。また、昭和キャンパスでの補講コースも震災以降の留学生数の減少によって、縮小傾向にあります。このように縮小されるコースがある一方で、桐生キャンパスではアジア人財資金構想の補助を受け、日本企業に就職したいと考えている留学生を対象とした数多くの日本語クラスが開講されました。また、来年度は昭和キャンパスでショートステイ・ショートビジットの留学生を 3 ヶ月ほど受け入れることとなっており、それに対応した日本語のクラスを開講する予定です。さらに、医学研究科でインドネシアのパジャジャラン大学とのツイニングプログラムが開始され、必修科目としての日本語のクラスも開講されます。

大学が受け入れる留学生の質、量の変化に応じて、どのようなレベルの、どのような内容のコースや授業を開講していくべきか、常に模索する日々です。

現在、群馬大学はグローバル人材育成と学士力育成（日本語リテラシーの養成）を全学的な目標としています。留学生は大学の内なる国際化の為にきわめて有意なリソースとなり得る存在であり、国際教育・研究センターとしても、群馬大学に在籍する留学生が真に必要とし、また学習者に有意義な授業を提供できるよう努力していきたいと考えています。また、日本語リテラシー科目の全学一斉施行により、日本語のアカデミックスキルとしての側面はそれらの授業で扱われることとなるため、教養教育科目の日本語クラスの内容にも少なからぬ影響が出てくることと思われます。科目内容の見直し等を定期的に行い、より効果的な授業を提供できるようにしていきたいと考えています。

（国際教育・研究センター准教授 牧原功）

2) 桐生キャンパスにおけるテレビ会議システムを使ったビジネス日本語講義の提供開始

テレビ会議システムを用いた授業風景
（桐生キャンパス）



工学部・工学研究科が 2007 年に応募し採択されたアジア人財資金構想事業は、留学生が専門科目に加えビジネス日本語や日本のビジネス習慣などを 2 年間学んだ後、大学近隣の企業を中心とするコンソーシアム企業に就職することを目指すプログラムでした。2011 年 3 月の事業の終了を機に、プログラムの全学化をはかることになりましたが、その一環としてテレビ会議システムを使用してのビジネス日本語講義の提供が開始されました。

2011 年後期は「実践パブリックスピーキング入門」のクラスが、毎週月曜の 16 時～17 時 30 分にテレビ会議システムを使って行われました。桐生キャンパスからは 7 名、荒牧キャンパスからは 3 名の学生から受講申し込みがあり、最終的には前者から 5 名、後者から 1 名が参加し計 6 名のクラスとなりました。教師は、全 15 回のうち、12 回は桐生から荒牧に向けて、3 回は荒牧から桐生に向けて講義を行いました。

テレビを通しての会話だと、話しかけてから1秒程度のブランクがあったり、また複数人数が同時に話している場合は聞き取りにくかったりという、技術的な問題もありました。このクラスは、プレゼンテーションやディスカッションの技術を学ぶものだったので、授業中この部分にストレスを感じた学生もいました。しかし、目新しい方法による講義で学生にも教師にも適度な緊張感が生まれたり、テレビの向こうにいる学生の聞き取りに配慮してはっきりした発音で話す態度が養われたりといった利点もありました。来学期以降も、テレビ会議システムを使った授業は継続される予定ですが、テレビ会議システムの効率的な運用方法について今後も検討していけたらと思っています。

(国際教育・研究センター講師 俵山雄司)

3. 国際交流部門から

2008年12月、留学生センターが国際教育・研究センターへと改組され、新しく国際交流部門が作られました。国際交流部門の第一の業務は、「国際化推進の基本計画の策定に関すること」です。実際、大学全体の具体的な国際化推進に関することはセンター運営委員会で検討されます。そこで、運営委員会の議事を円滑かつ効率的に行うため、私たちは国際交流部門に部門会議を設置しました。この部門会議には国際交流課の課長と副課長にも入ってもらい、国際交流協定の締結や学術交流の計画など各部局から出される議題を整理したり、大学全体の国際化推進に関する課題など運営委員会で検討すべき議題を作成したりしています。

国際交流部門では、学部や研究科の国際交流をサポートするだけでなく、センター独自の視点から、国際交流協定校の開拓を行ってきました。それは学生交流を中心にしたものです。学部や研究科では研究者間の学術交流が主であるため、それに基づいた交流がそのまま留学生の受け入れに結びついてきませんでした。そこで、部局間で始まった学術交流を大学間の学生交流まで拡大させるよう働きかけをしてきました。また、交流協定先の新規開拓では、留学生の受け入れという点から、戦略的に行ってきました。バクー国立大学（アゼルバイジャン、2009年締結）やカーロリ・ガシュパール・カルビン派大学（ハンガリー、2010年締結）、ヤギェウォ大学（ポーランド、2012年3月締結予定）というように東中欧やコーカサス地方においても交流が広がっています。

留学生交流については、留学生教育部門と協力しながら、交換留学生のためのプログラムを提案しています。2008年10月から二つの新しいプログラムが始まりました。「日本研究（武道・芸術）実践プログラム」（1年間）がその一つです。10月に渡日した短期留学の学生は、日本語集中コースで日本語を習得しながら、武道科目か芸術科目を学びます。きっかけは日本文化を肌で感じてもらいたかったからです。武道科目の柔道と剣道では、留学生も日本人の学生と一緒に、畳や板の間で正座をします。そして礼をしてその日の稽古が始まります。芸術科目には日本画と邦楽があり、日本画の授業では、日本画の画材や絵の具を使って作品を作っていきます。邦楽の授業では、琴と三絃を演習します。そして、学期の終わりには作品展や演奏会を実施し、日頃の成果を競います。

もう一つはJプログラムです。これは日本語日本文化研修留学生（日研生）や交換留学生を対象にしたもので、日本文学や日本文化など日本研究を専攻する学生には最適のプログラムだと思います。10月から1年間、前半では主に日本語の能力を高め、日本文化・社会などへの理解を深めます。後半では、自分の研究テーマに沿って調査を行い、研究レポートをまとめます。

本プログラムの目玉として、日本事情に関する「特別講義」があります。この講義は1教員1コマのオムニバス形式で行われます。講義を提供してもらう協力教員は全学部に及んでいるため、文理を問わず、あらゆる学問的領域から、学生は日本に関するさまざまな知見を得ることができます。

2009年1月 バクー国立大学訪問
(前列右から3人目鈴木学長)



2009年12月 剣道の1コマ



こうしたさまざまな取り組みをしながら、国際交流を活発で有意義なものにしていくのが私たちの役割です。当然のことながら、海外の大学との連携を図ったり、留学生の受け入れを滞りなく行ったりしていくには、事務の方々の大きな力が必要です。国際交流課のスタッフのみなさまともこれまで以上に協力しながら、進めていこうと思います。

(国際教育・研究センター准教授 野田岳人)

4. 留学生相談室から

(1)「留学生サポートデスク(荒牧キャンパス)」の取り組みと利用について

群馬大学国際教育・研究センターでは、交換留学生の増加やそれにもなる支援ニーズの多様化に対応するため平成 23 年度後期から荒牧キャンパスに留学生サポートデスク (ISSD=International Student Support Desk) を立ち上げより柔軟な支援を可能にしています。以下にその概要と支援の実績をまとめました。

①ISSD の目的

現行のチューターシステムの補完的役割を果たすシステムであり、留学生の大学生活への適応、学習サポートを中心とした常駐学生サポーターによるチーム支援プログラムです。

従来の 1 対 1 のチューターシステムではミスマッチングがおきやすく、また、来日直後の最も支援を必要とする時期にチューター配置ができない問題があること、さらに、交換留学生には、学習支援よりも友人やネットワーク作りをチューターに求める傾向があり、現行のシステムとのずれが生じていることが考えられていました。そのため、平成 23 年後期より、週 5 日定時に常駐する学生サポーターを配置し、来日直後から大学生活への適応、学習の支援、コミュニティ作りに寄与するサポーターグループとシステムの構築を目指しています。

②運営メンバー

約 10 名で運営しています。群馬大学の学部、大学院に所属する学生で留学生の先輩もいます。希望者が多い場合は、チューター経験者、海外留学経験者、異文化間コミュニケーション等センター教員の講義を受講した学生などを優先し、チューター担当教員との面談を経て採用されています。

③枠組み

<実施期間>2011 年 10 月 3 日～2012 年 1 月 31 日

<実施時間帯>月曜日・火曜日・水曜日 10:00～12:00 木曜日・金曜日 16:00～18:00

<実施場所>国際教育・研究センター 2F 国際交流室の一角

<サポーターへの謝金等>大学規定の謝金

<サポーターの配置と利用できる人>サポーターは 2 名体制・固定式。高学年学生を中心に、先輩留学生、工学部学生にもサポーター登録を促します。群馬大学に在籍する留学生は誰でも利用することができます。

<支援内容>来日直後の適応支援・大学生活に関するサポートやアドバイス・時間割作りのサポート・学内案内・生活エリア周辺の情報提供・日本語学習支援・宿題・レポート・発表の支援・学部科目の学習支援、留学生と日本人との交流プログラムの計画・実施など

<教育的介入>

*実施前オリエンテーション・中間ミーティング・サポーターミーティングリストを担当教員と共有しています。担当教員はモニタリングを常時行い、必要に応じて教育的介入を行います。

(国際教育・研究センター講師 園田智子)

留学生サポートデスクで留学生の相談に応じるサポーター



(2) 公開講座「異文化間コミュニケーション・トレーニング」と地域交流

今回で2回目となる群馬大学公開講座「異文化間コミュニケーション・トレーニング」が、7月30日(土)、8月6日(土)、8月13日(土)の連続3回で行われました。この講座は、一般市民の皆さんに、様々な文化背景を持つ人々とコミュニケーションを行なう際に必要とされる異文化間コミュニケーションに関する知識を学んでもらい、さらに、本学留学生との実践的な交流を通して生の異文化間コミュニケーションを経験してもらうことを目的としています。また、講座修了後には、個別の交流プログラムを設けており、講座修了生に、本学留学生との交流ボランティアとして継続的に本学の留学生との交流、支援に携わるFamily-ICEのメンバーとして活躍してもらうことが可能です。今年度の講座参加者は定員20名に対し、16歳の高校生から80代の方まで30名のお申し込みがありました。最も多かったのは30代から40代の女性でした。ほとんどが初めて公開講座を受講された方で、大学ホームページからのお申し込みが30%と最も多くなっています。講座の内容は、第1部が、異文化間コミュニケーションに関する基礎知識を学ぶ講義とグループワーク、第2部が「宗教観」「お金に関わる話」などを留学生から聴く直接対話、第3部が異文化間葛藤場面の解決法を考えるケーススタディです。

毎回、講座には数名の留学生がサポーターとして参加し、講座受講者との直接対話を通してより理解を深めてもらうよう配慮しました。また、留学生の持つ宗教や普段聞けないお金の話などについて留学生から話を聞くことができ、このセッションは大変好評でした。毎回参加人数は多かったですが、皆さん大変熱心に、また積極的にそれぞれのワークに参加してくださり、大変熱気を帯びたよい雰囲気の中、3回の講座を終了することができました。サポーターの留学生にとってもよい機会となったようです。現在、修了生の約半数13名が交流ボランティアとして登録されており、交流を希望する留学生とペアマッチングを行い、交流が始まっており、継続的な異文化理解、留学生支援につながっています。来年度以降も継続して講座を実施していきたいと考えています。参加を希望される方は、ぜひ、群馬大学公開講座ホームページよりお申し込みください。

(国際教育・研究センター講師 園田智子)



留学生とのグループワークで盛り上がる参加者



留学生のスピーチに熱心に耳を傾ける。



講座が終わるころには一つのチームに

5. 留学生研修旅行（鎌倉方面）報告

2011年9月6日から7日にかけて、毎年恒例の留学生研修旅行が行われました。参加者は、留学生28名（中国、ベトナム、ネパール、タイ、イラン、ペルー他）、日本人サポーター学生2名、引率者2名の32名でした。

今年度の研修は鎌倉方面です。伝統的な日本の神社仏閣の見学や、工場見学、宇宙開発現場の見学など日ごろ経験できないことを、多くの留学生仲間とともに経験しました。

【1日目旅程】群馬大学→川崎大師→昼食→日清オイリオ横浜磯子工場見学→江ノ島散策→宿泊（岩本楼）

1日目、川崎大師見学、昼食後、日清オイリオの工場でおイルの製造や販売までの過程を学んだ後、その広い敷地内の様々な施設を見学しました。工学部の皆さんには、製造している効率的で精密な機械のほうに大変興味があったようでした。帰りにはオイルやドレッシングのお土産もいただきました。



宿泊先は、江ノ島にある日本旅館「岩本楼」です。一度荷物を置いて、それぞれ、地図を片手に江ノ島散策に出かけました。日ごろ海を見る機会の少ない群馬大学の留学生は、美しい海の景色に大興奮。江の島の神社めぐりや展望台からの写真撮影などを楽しみました。宿泊先でおいしいお食事をいただき、その後、全員でリ克雷ションゲームをしました。学部やキャンパスの異なる留学生同士が交流しあう貴重な機会となりました。

【2日目旅程】

旅館→建長寺→鶴岡八幡→高德院→昼食→JAXA 相模原見学→群馬大学

2日目は早起きして朝から神社仏閣3箇所をめぐりました。地元の通訳ボランティアの方々に歴史や古典を解説してもらいながらの見学です。そして最後に JAXA を見学しました。宇宙開発の現場に、多くの留学生の顔は真剣そのもの、見学時間終了間際まで質問が途切れることなく、もう少し見学時間を多くとることができたらよかったと思いました。

今回の留学生研修旅行では、このような機会は、留学生が日本の新旧の文化、社会、技術を学ぶ貴重な機会であると同時に、複数のキャンパス間で接点がなく交流が生まれにくい留学生同士の交流の一助となると実感しました。また、特に工学部留学生の多い本学の留学生には、工場見学は、それが最先端のものでも、日常生活に関わるものでも、想像以上に強い興味関心があり、個人ではなかなか得られない機会でもあるため、ニーズも満足度も高いと感じました。今後の研修旅行の計画立案に生かしていきたいと思っています。

(国際教育・研究センター講師 園田智子)

6. 日本留学フェア in 北京

～日本学生支援機構日本留学フェア～ (中国・北京)の参加報告

2011年10月15日・16日の両日、中国北京市の国際貿易展庁で開催された日本学生支援機構主催の日本留学フェアに、群馬大学としてブース出展をしました。センター長(工学研究科教授)の大澤研二教授、センター教員の俵山雄司講師、国際交流課の三好京子係長の3名が参加し、群馬大学の研究・教育のPRと、留学に関する相談の受付を行いました。

ブースで対応した学生のうち、具体的に専門分野を挙げて相談に来た学生の合計数は以下の通りでした。

	教育	社会情報	医学	工学	計
学部	2	1		2	5
大学院	8	12	2	13	35

ブースに来た人数そのものは多くはなかったものの、その分時間をかけて丁寧に相談に応じることができました。



美しい江の島の景色に興奮！



JAXA での見学



群馬大学ブースで工学部への入学について熱心に尋ねる参加者の様子

全体的な傾向としては、文系大学院への入学希望者が多数を占めました。しかし、彼らの学びたい分野は「経済」「貿易」「流通」であり、該当分野の教員やカリキュラムの情報が少ないため説明に苦慮することもありました。また「工業デザイン」「美術」「アニメーション」を希望する学生も数名立ち寄りましたが、本学教育学部の美術教育専攻は教員養成を目的としているため、学生の希望とはズレがあり、他大学を薦めるケースもありました。一方、工学系については「コンピュータ」「応用化学」「材料化学」「バイオ」「電気電子」などの専門を希望する学生が来場し、大澤教授に専門教育の内容などについて熱心に尋ねる姿が見られました。彼らの中には、工学系であっても既に一定の日本語力を身に付けている学生もあり、学生の能力や意欲の高さに驚かされました。



両親と訪れる参加者も多い。

（国際教育・研究センター講師 俵山雄司）

7.【群馬大学留学生の声①】

群馬大学での留学生活

—2年間の大学生活から憧れのメーカーへ—

群馬大学工学部 4年 ナルバエス・パブロ（コロンビア）

群馬大学での留学生活はやるべきことがたくさんあって、振り返ると、あっという間に過ぎてしまいました。専門学校を卒業後、編入生として入学し、2年間工学部桐生キャンパスで学びました。他の大学より編入生の受付が早いこともあってか、群馬大学には外国人留学生が多いと感じました。留学生対象の入学試験は年に3回あって、受け入れ体制が充実していると思います。

実際の大学生活は、一年生から始めていないので迷う事も多かったですが、温かい雰囲気先輩や先生、職員の皆さんが助けてくれました。経済状況は留学生によるとと思いますが、奨学金や免除を受けている留学生も多いと思います。家賃の安い国際寮に1年間住むことができます。私もこの様な支援を受けて、勉強に励む事が出来ました。そして、卒業後は、日本企業で働くことが決まっています。

私は、群馬大学工学部の研究室で制御工学を専門として勉強し、憧れのロボットメーカーに就職することができました。日本の就職活動は他国と違い、沢山のお金と時間を注いで、勉強と両立させる必要があります。私が日本での就職に成功したのは、自分自身の努力に加え、この大学の様々な支援を受けたおかげでもあるといえるでしょう。国際教育・研究センターの提供する日本語のクラスの中には就職活動、ビジネス日本語などの授業もあります。

最後に、群馬大学で、私は、様々な人との交流や発表の機会をもらいました。高校生と交流したり、講演会で発表したり、地元の祭りに参加したり、後輩の手伝いをしたり、英会話をしたりしました。これによって、私は桐生市と群馬大学との関わりを深める事が出来ました。そして、自分の大学と住む町への帰属意識が高まったと感じています。コロンビアの代表として群馬で良い印象を与えられる様に努力し、今後群馬から離れても、群馬大学と桐生について情報を発信していきたいと思っています。



研究室のメンバーと。パブロさんは、最前列左から二番目。

MI VIDA COMO ESTUDIANTE EXTRANJERO EN LA UNIVERSIDAD DE GUNMA- “DE 2 AÑOS DE VIDA UNIVERSITARIA A LA COMPANIA DE ENSUEÑO”-

Hubieron muchas cosas por hacer, pero al mirar atrás pasó rápidamente. Me gradué de una escuela técnica e ingrese como estudiante transferido, por lo cual solo estuve 2 años en la facultad de ingeniería en la ciudad de Kiryū. Respecto a otras universidades la recepción de estudiantes transferidos es rápida, tal vez por eso siento que hay muchos extranjeros en esta universidad. Hay 3 exámenes de admisión en el año que los extranjeros pueden aplicar, así que puede decirse que el ingreso de extranjeros esta bien organizado.

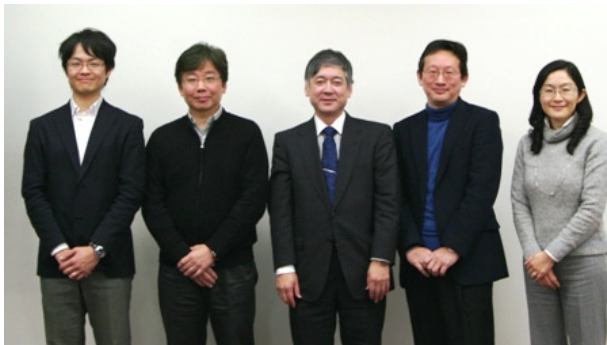
Mi vida universitaria fue de hecho, como no inicie desde primer año no sabia muchas cosas, pero en un ambiente ameno todos los estudiantes antiguos, profesores y empleados me ayudaron. La situación económica creo varia entre los estudiantes, pero hay muchas personas que reciben beca o exención de matrícula. Hay un dormitorio donde pueden vivir por un año con renta baja. Yo al igual recibí estos beneficios y me esforce en mis estudios. Al graduarme ya esta decidido que trabajaré en una compañía japonesa.

Yo en la universidad de Gunma estudie ingeniería de control como especialización y logre ingresar a la empresa de robótica que mas quería. El que yo haya encontrado trabajo en Japón, puede decirse es debido en parte a los varios beneficios recibidos en esta universidad. El centro de investigación y educación internacional ofrece clases de japonés, búsqueda de trabajo en Japón, japonés para negocios, entre otros. Buscar trabajo aquí es probablemente distinto a otros países, se requiere mucho dinero y tiempo invertidos, y se debe responder por los estudios al tiempo. Si se desatienden los estudios, aunque se defina el trabajo, por no graduarse hay casos en que no pueden comenzar a trabajar.

Por último, en la Universidad de Gunma yo recibí oportunidades para hacer presentaciones y varios intercambios culturales como, hablar con jovenes de bachillerato, realizar exposiciones en eventos, participar en las festividades locales, colaborar a los estudiantes nuevos, dialogar en inglés, etc. Con esto, yo pude profundizar las relaciones con la universidad y la ciudad de Kiryū. Es decir, siento que se incrementó la pertenencia que tengo hacia mi universidad y la ciudad en donde vivo. Como representante de Colombia, en Gunma hice esfuerzos para dejar una buena imagen, y al alejarme de Gunma estuve emitiendo información de mi universidad y mi ciudad.

【付録】

2012年3月現在、群馬大学で、留学生の教育、指導、支援を担当している教員とスタッフをご紹介します。



左から）俵山雄司（日本語部門（桐生分室）・講師）牧原功（日本語部門・准教授）大澤研二（センター長・工学部応用科学生物化学研究科教授）野田岳人（国際交流部門・准教授）園田智子（国際交流部門・留学生相談担当・講師）

国際教育・研究センター教員からのメッセージ

牧原先生：荒牧キャンパス、昭和キャンパスの日本語コースのコーディネートを中心に仕事をしています。学習者の要望と必要性に合った授業を提供できるよう心がけています。

野田先生：日本研究（武道・芸術）実践プログラムとJプログラムのコーディネーターをしています。授業では、「日本語・日本事情」科目を担当しています。現在の課題は「日本語（読解）」の授業で新しい教材を開発することです。Moodleを使ったマルチメディア型の教材の作成に取り組んでいます。

俵山先生：桐生キャンパスで、日本語コースのコーディネート、アジア人財資金構想プロジェクトと和英両言語によるものづくり実践教育プログラムの運営をしています。授業は初級から上級までの様々なクラスを担当しています。最近では、できるだけ教師の発話の量を減らして、学生の発話の量を増やし、なおかつ学生が満足できる。そんな授業を目指して工夫しています。

園田智子：異文化間教育、異文化間コミュニケーションが専門です。留学生の相談、支援を担当しています。予防的な支援を心がけています。留学生の皆さんの悩みや希望に気持ちを寄せて、ご相談を受けています。ぜひ、留学生相談室を上手に使ってください。



(後列左から) 国際グループリーダー青木あずさ 国際交流課長亀井武志 国際グループスタッフ剣持万里沙
国際グループスタッフ近藤さやか (前列左から) 国際グループチーフ三好京子 国際グループスタッフ横山裕子
国際グループチーフ塚本泉

国際交流課職員の皆さんからのメッセージ

亀井：国際交流課は留学生受入等の業務を行っています。これらの業務を通じて社会に貢献できればと思っています。

青木：日々異文化交流の国際交流課に、はや7年。多くの留学生の皆様が群馬大学に来られることを心からお待ちしております。

三好：留学生の皆さんからいろんな話が聞け、“世界は広いなあ”と日々実感しています。日本人学生さんも積極的に国際交流課を利用してください。留学情報や留学生との交流、いろいろな行事の発信をしています。留学生の皆さん！今年7月9日から入管の制度が変わります！在留資格の手続きは早めに窓口に来て準備をすすめてみましょう。留学に関心のある外国人の皆さん、まずは群馬大学のHPをよく見て、自分の学びたいことを見つけてください。ぜひキャンパスでお会いしましょう！

横山：留学生のみなさん、こんにちは。日本での生活では、わからないこと、困ったことなどたくさんあると思います。困ったことがあったら国際交流課へ相談に来てください。実りある留学生活が送れるよう応援しています！

塚本：多国籍な留学生の皆さんからパワーをもらっています。日本語の勉強は緑豊かな群馬大学で！センターの事務と国際交流会館の担当をしています。

剣持：まだこの仕事を始めて一年たちませんが学生に接する機会が多く、個性あふれる学生の笑顔から毎日元気をもらっています。

近藤：チューターや生活支援などを担当しています。皆さんの留学生活が楽しくなるよう、サポート出来たらと思います。よろしくお願いします。

国際教育・研究センター 桐生分室 職員の皆さんからのメッセージ

丹羽：桐生分室にて国際交流全般、特に留学生の担当をしています。主に国費・マレーシア政府・交換留学生の受入を中心に仕事をしています。また高校生との交流や日本文化を体験する留学生行事や語学アルバイトの紹介、海外からの調査回答なども行っています。自身も中学・高校と海外で育った帰国子女なので留学生の気持ちに沿ってお手伝いが出来るかなと思っています。特にこの頃は日本人学生の留学希望者が増えているので、それらの渡航相談が多くなりました。

円岡：桐生キャンパスで皆さんの在留資格を始め入国管理局への申請についてのお手伝いをしています。留学生の宿舎にもなっている国際交流会館の担当もしています。

発行

群馬大学国際教育・研究センター

〒371-8510 前橋市荒牧町4-2

<http://cier.aramaki.gunma-u.ac.jp/>

群馬大学国際教育・研究センターニューズレター 第11号

編集担当：園田